

岩城良次郎名誉教授著作目録

昭和二十六年（一九五一年）

八月

「焼出銀の電気二色性」（共著）日本化学雑誌 第七卷 第八号

一〇月

「焼出銀の光二色性に電場のおよぼす影響」（共著）日本化学雑誌 第七二卷 第一〇号

「色素ゼラチン膜の電気二色性（第一報）」

色素ゼラチン膜の電気二色性」日本化学雑誌 第七二卷 第一〇号

二卷 第一〇号

「色素ゼラチン膜の電気二色性（第二報）」

光励起下における色素ゼラチン膜の電気二色性」日本化学雑誌 第七二卷 第一〇号

「色素ゼラチン膜の光二色性の研究（第一報）」

色素ゼラチン膜の光二色性における緩和現象」（共著）日本化学雑誌 第七二卷 第一〇号

「色素ゼラチン膜の光二色性の研究（第二報）」

緩和現象を考慮した正しい光二色性・時間曲線について」（共著）日本化学雑誌 第七二卷 第一〇号

「色素ゼラチン膜の電気二色性（第三報）」

一一月

「色素ゼラチン膜の電気二色性（第三報）」

昭和二十八年（一九五三年）

六月

「色素ゼラチンリン光体の研究（第一報）」

色素ゼラチンリン光体における結合水によるリン光の消光について」日本化学雑誌 第七四卷 第六号

一二月

「色素ゼラチンリン光体の研究（予報）」（共著）日本化学雑誌 第七二卷 第一二号

色素ゼラチン膜の電気二色性に対する理論的考察」（共著）日本化学雑誌 第七二卷 第一一号

「色素ゼラチン膜の光二色性の研究」（第四報）」

色素ゼラチン膜の光二色性の分散について」（共著）日本化学雑誌 第七二卷 第一一号

「色素ゼラチンリン光体の研究（予報）」（共著）日本化学雑誌 第七二卷 第一二号

昭和二十九年（一九五四年）

五月

「金属化合物を基体とする有機リン光体の研究（第一報）」

リン光基体能を持つ金属塩結晶およびリン光色調に

六月 「色素ゼラチンリン光体の研究(第三報)リン光の飽和特性について」日本化学雑誌 第七七巻 第六号

八月 およぼす金属イオンの影響について」日本化学雑誌 第七五巻 第五号
「色素ゼラチンリン光体の研究(第二報)リン光寿命について」日本化学雑誌 第七五巻 第八号

昭和三年(一九五七年)

十一月 「金属錯塩存在下のルミノールの化学発光について(第一報)」

九月 「色素ゼラチン伸張膜の二色性」日本化学雑誌 第七五巻 第九号

昭和三年(一九五五年)

六月 「金属化合物を基体とする有機リン光体の研究(第二報)」

「化学発光を利用する過酸化水素の微量定量」(共著)日本化学雑誌 第七八巻 第一一号
「色素の化学発光に関する研究(第一報)」
発光現象の特異性」(共著)日本化学雑誌 第七八巻 第一一号

昭和三年(一九五八年)

二月 「ルミノールの化学発光に関する研究(第一報)」

七月 「焼出銀の光二色性に対する減感色素の影響」科学 第二五巻 第七号

アルカリ・ルミノール水溶液(酸素溶解)の金属化合物による発光現象について」日本化学雑誌 第七九巻 第二号

昭和三年(一九五六年)

一月 「金属化合物を基体とする有機リン光体の研究(第三報)金属塩の蛍リン光スペクトルにおよぼす影響について」日本化学雑誌 第七七巻 第一号

三月 「色素の化学発光に関する研究(第二報)」
発光量の時間変化」日本化学雑誌 第七九巻 第三号

「金属化合物を基体とする有機リン光体の研究(第四報)ウラニン・酢酸鉛系リン光体のリン光現象について」日本化学雑誌 第七七巻 第一号

「色素の化学発光に関する研究(第三報)メタノール水溶液中における化学発光」(共著)日本化学雑誌 第七九巻 第三号

昭和四一年（一九六六年）

二月

Studies of the Chemiluminescence of Several Xanthene Dyes I. Kinetic Studies of Uranine and Eosine Chemiluminescence

Bull. Chem. Soc. Japan, Vol. 39, No. 2. . (共著)

Studies of the Chemiluminescence of Several Xanthene Dyes II. The Chemiluminescence Emission

Spectra of Uranine and Eosine

Bull. Chem. Soc. Japan, Vol. 39, No. 2. . (共著)

Studies of the Chemiluminescence of Several Xanthene Dyes III. The Effect of Added Foreign Dyes

on Light Production

Bull. Chem. Soc. Japan, Vol. 39, No. 2. . (共著)

Studies of the Chemiluminescence of Several Xanthene Dyes IV. Theoretical Considerations

Bull. Chem. Soc. Japan, Vol. 39, No. 2. . (共著)

昭和四三年（一九六八年）

二月

『化学実験事典』（一部執筆）講談社

昭和四四年（一九六九年）

一月

「ベンゼン誘導体—蛍光性化合物—酢酸系のオンによる化学発光」（共著）工業化学雑誌 第七二巻

第一号

「複写技術の進歩」ビジネスレビュー 第一七巻

第一号

三月

『現代化学』（共著）東京教学社

「化学発光の応用」一橋大学自然科学研究 第一一

号

四月

Chemiluminescent Reaction between Polyphenols

and Ozone in Acetic Acid. Bull. Chem. Soc. Japan,

Vol. 42, No. 4 (共著)

一二月

「化学研究の進展」一橋論叢 第六一卷 第四号

一二月

「機械商品におけるプロダクト・ライフサイクル曲

線の形状」商品研究 第七九巻

昭和四六年（一九七一年）

一月

「ルミノールとその関連物質の化学発光」一橋論

叢 第六三巻 第一号

六月

「化学商品におけるプロダクト・ライフサイクル曲

線の形状」商品研究 第八五巻

「商品学における技術革新の問題点」ビジネスレビ

ュー 第一九巻 第一号

七月

「生産方式のライフサイクルにおける特異性」日本

商品学会関東支部報 第一六号

昭和四七年（一九七二年）

三月「化学プロセスの競合と転換」一橋大学自然科学研究

第一四号

四月「エネルギー資源」化学教育 第二〇巻 第四号

六月『商品学講義』(第七章 第一章前半 第五章を執筆) 青林書院新社

報社

一二月「商品と資源」ビジネスレビュー 第二三巻 第三号

昭和五一年(一九七六年)

二月『商品学』(青林双書) 青林書院新社

六月『商品大辞典』(一部の編集と執筆) 東洋経済新報社

昭和四八年(一九七三年)

六月「商品の安全性についての動向」ビジネスレビュー 第二一卷 第一号

一一月『増訂・化学実験事典』(一部執筆) 講談社

昭和五二年(一九七七年)

一月『現代の商品』(文部省検定済 高等学校商業科用教科書) 実教出版

昭和四九年(一九七四年)

三月「商品学の研究における視点とその展開」一橋大学商学研究 第一七号

「日本の化学資源事情——主として無機化学資源を中心として——」一橋大学自然科学研究 第一六号

一一月『経済学の動向』第一八部「商品学」(一部執筆) 東洋経済新報社

七月「商品の主要用途の数からの一考察」日本商品学会関東支部報 第三一号

昭和五三年(一九七八年)

六月「商品のライフサイクルオーデオ用真空管の技術史を事例として」一橋大学自然科学研究 第一八号

一一月『経済学の動向』第一八部「商品学」(一部執筆) 東洋経済新報社

八号

昭和五〇年(一九七五年)

五月 The Present Status of Commercial Photodegradable Plastics. Hitotsubashi Journal of Commerce & Management Vol. 10, No. 1

九月 Composite Materials for more effective Use of natural Resources 第一回商品学国際会議発表論文集

九月『体系経済学辞典』(商品の項を執筆) 東洋経済新

昭和五四年(一九七九年)

十一月 「商品と単位」一橋論叢 第八二巻 第五号

昭和五五年（一九八〇年）

四月 『経済辞典』（編集ならびに一部執筆）講談社

昭和五六年（一九八一年）

三月 『改訂商品学講義』（共著）青林書院

六月 「複合商品の特質」ビジネスレビュー 第二九巻

第一号

一二月 「商品の色の役割」一橋論叢 第八六巻第六号

昭和五八年（一九八三年）

一月 「素材と使用価値―われわれにとって水とはなに

か―」日本商品学会関西部会 商品学研究叢報 第

三集

三月 『化学の理解』（共著）三共出版

五月 「商品」（文部省検定済 高等学校商業科用教科書）
実教出版

昭和五九年（一九八四年）

一月 「現代商品の持つメッセージ特性に関する一試論―

具体的商品を事例として」（共著）一橋論叢 第九

一巻 第一号

一二月 『体系経済学辞典』第六版（商品の部執筆）東洋経

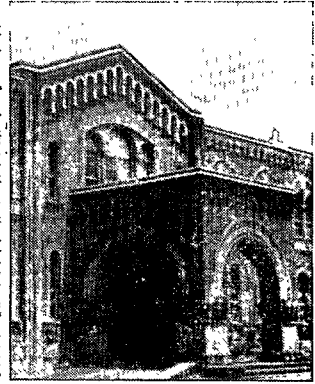
済新報社

『現代化学』（共著）東京教学社

昭和六〇年（一九八五年）

四月 「一橋商品学と日本商品学会」一橋論叢 第九三巻

第四号



本号は、一橋大学名誉教授岩城良次郎先生の退官記念号として特集された。実質的な編集については商学部商品学部門の片岡寛教授から全面的な御協力をいただいたので、後記も、同教授にお願いすることとした。

(杉山武彦)

岩城良次郎先生は、本年（昭和六十一年）四月一日をもって、一橋大学を停年御退官された、昭和四十二年八月に愛知教育大学から本学に教授として御着任されて以来、十九年の永きに亘り、本学の前期教育での化学、専門教育での商品学にたずさわられ、研究教育の発展に尽力された。その間、日本商品学会の理事、評議員を永年に亘り歴任されており、商

品学の進歩・発展に学内外で活躍なさった。さらに、着任以来毎年七月下旬に本学東校舎を会場にして、全国の商業高等学校の先生方を対象にした商品科指導者養成のための実験実習講習会を、一橋大学と文部省、全国商業高等学校長協会、日本商品学会とで協力し開催し、その運営と指導にあたられた。これらの御苦労に対して、昭和五十九年十一月には、文部省から産業教育百年記念にあたり、表彰を受けられた。

先生は一橋大学では化学の授業と同時に、商品学（化学商品、商品検査）の授業を担当され、自然科学と社会科学の両分野にわたって研究と教育を続けられた。先生の御研究は、化学の分野では主として、有機化合物の化学発光の現象を物理化学的に解明することに興味を持たれ、数多くの論文として成果が得られている。一方商品学の分野でも、特に先生の商品現象をプロダクトライフサイクルから分析する一貫した研究のほか、商品の競合代替、補完、高級化、高次化、複合化など商品の市場現象の解明に多大の成果を

挙げられた。このような市場で発生する商品現象に対して正面から商品学として取り組み、しかも丁寧にデータを基に分析する学風は、新しい一橋商品学の方向を基礎付けられたと思う。後に続く我々はこの道をより大きいものにしていく必要性を痛感している。

先生は大変温厚なお人柄で大学でも学生から「仏の岩城」と呼ばれ親しまれておられた。二月四日に行なわれた最終講義も学生、教官をはじめ、学会関係者、ゼミ卒業生で会場は立見も出る盛況ぶり、で、先生の徳の深さがしのばれた。

最後に先生がこれからも一層ご健康で、ご活躍されることをお祈りすると同時に、本記念号のために忙しい中ご執筆いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。お陰様で論文七本、研究ノート一本、しかも自然科学と商品学と先生の一橋での研究生活を象徴する多彩な内容となった。

さらに本記念号についてお世話いただいた編集委員会の先生方と、編集所の皆様に対し心から御礼と感謝申し上げます。

(片岡寛)